

「子どもに本を届ける人のために」
 =子どもに本を手渡すということ=
 講師 中村 柁子氏

《プログラム内容》

10:30~12:30

- 《1》大人と子どもとの絵本の味わい方の違いについて。
- ・大人は読むことで、子どもは聞くことでおはなしを知る。
 - ・本を選ぶことは、子どもを知ることである。
 - ・子どもの生活の中の言葉の豊かさについて。
- 《2》子どもの「絵本の道」のたどりかた
- ・赤ちゃん期から幼児期にいたるまで、それぞれの時期どんな楽しみ方をするのか。
 - ・成長するにつれ、体験と絵本がつながってくる。
- 《3》絵本を選ぶことは難しいのか。
- ・大人と子どもの二つの目で選書をする。
 - ・子どもにこびず、作りが丁寧で誠実な本であること。
 - ・良質な本には余白がある。
- 《4》絵本を楽しむ。
- ・豊かな日本語で読んでやることの意味の大きさ。
- 《5》なぜ読むことはいいことなのか
- ・本は未知の世界、暮らしに必要な知恵を伝えてくれる。
 - ・自己肯定感・人への信頼、生き抜く力を与えてくれる。
 - ・賢く、心豊かに生きることを励ますものである。

◎紹介して頂いた絵本の一部

	題名	作者	出版社
1	くだもの	平山和子	福音館
2	いちご	平山和子	福音館
3	がたんごとんがたんごとん	安西水丸	福音館
4	しろくまくのホットケーキ	わかやまけん	こぐま社
5	もこもこもこ	谷川俊太郎	文研出版
6	いたずらきかんしゃちゅうちゅう	バートン	福音館
7	ピーターのくちぶえ	キーツ	偕成社
8	つるによぼう	矢川澄子	福音館
9	木のうた	イエラ・マリ	ほるぶ
10	ちいさいおうち	バートン	岩波書店



★今回の講座は読み聞かせボランティアのみならず、小さい子どもがいる母親達の参加も多く、70名を超える盛況ぶりだった。

冒頭では、子ども達の内面に見合うような本選びをすることがいかに子ども達の心の成長に大切なのかということ、講師自身の体験を交えながらお話頂いた。「子どもたちと言葉のある体験をどれだけしてきたのか」「生活の中の言葉の豊かさが子ども達にとっていかに大切か」など、日常の中で子ども達の言葉を育てていくことは、私たち大人が取り組むべき課題であるということ、そして、子ども達に未知の世界を伝えてくれる本の存在はとても重要な役割を担っていることなどを再認識させられた。

「良質な絵本には余白がある。余白は人に想像力を与え、感じたり考えたりするもとになる。」先生の口からなげなく語られるこういった言葉のなかにも、選書のヒントを見つけることができたのではないだろうか。子どもと本の出会いの場に寄り添うボランティアにとっても、今回の講座は、自分たちの活動の原点を見つめ直す良い機会となったと思う。

